

基礎的なことをしっかり

葛飾区立本田中学校教諭（社会科） 本山 明

（1）実習開始

こんにちは。教育実習は結構緊張すると思います。私も昔、教育実習をしました。大学生活と生活パターンが違うというか、朝学校に7時半頃行って夕方6時頃まで学校にいる生活をするわけです。割と夜遅くまで起きている人が多いかと思うのですが、その生活パターンに合わせるのがまず大事かと思えます。ぜひ朝早く起きる癖をつけてください。そうでないと体調が整いません。朝型人間に切り替えてほしいと思います。

学校に行くと、まず、紹介をされます。職員室で前に立ちます。「実習生の〇〇です。よろしくをお願いします」という話をするわけです。その時に職員目がこちらに向きますから、めげないで明るく挨拶をしてください。

最初の月曜日には、体育館で全校集会が開かれます。朝礼の時に挨拶をしなければなりません。ステージの上で挨拶をします。別に緊張しても構いませんので、とにかく元気なのがいいなと思います。

もう打ち合わせが終わった人もいますが、これから打ち合わせがある人はぜひ、どこを教えるかをしっかり聞いてください。授業を何時間持つかは学校状況によって違います。例えば10時間ぐらい授業を持つ人も、5時間の人もあるし、もっと持つ人もいるかもしれません。

10時間持つと、どのぐらいの予習が必要かという40時間は必要だと思います。1時間について4時間ぐらいの予習をしないとなか

なか難しいと思いますので、できるだけ早く教科書の教えるところをはっきり聞いて、教科書を借りるかコピーしてもらおう。または三省堂の本店へ行けば教科書はほとんど売っていますので——700円ぐらいです——、そこで新しい教科書を手に入れてください。まず、教科書をよく読み込むことが必要です。

簡単に言って80%は教科の指導だと思ってください。つまり、生活指導のところを中学校の教員が学生に求めるのも難しいし、どういう実習生か分からないという面もあるからです。ただ、教科のほうは完全にその時間帯はお任せになりますので、教科指導のほうを期待していると思っていただいてもいいと思います。

第1週目に入ると、まず校長との打ち合わせがあります。それから教務主任といって、時間割作成や様々な行事の日程設定や授業設定をする先生の話があり、生活指導主任といって、生活上のいろいろな問題行動や生徒会行事などを中心的にやる部署の先生の話があり、最初の1~2日はそういう話で終わると思います。

その後、クラスが紹介されます。クラス紹介が1日目に来ると思うのですが、担任の動きをよく見てほしいと思います。担任が朝、出席を取ります。その時に名前の表がありますので、それを見て、できるだけ名前と顔を一致させるようにしてください。全部覚えるのはなかなか難しいので、1日目に名表・席表をコピーさせてもらってください。

1週目は、様々な教科の教員の指導を見る

形になると思います。すぐ授業に入る学校はほとんどないと思います。その時に、どのぐらいのペースでやっているか、よく観察してください。どこを見るかという、まず声の大きさ、どのぐらいの声の大きさを出せば話が通るかかどうかということです。小さい声だと、いくら聴こうと思っている生徒がいても聴けませんので、声をどのぐらい上げればいいのかを確認してください。

板書はあまりやったことがないと思うのですが、板書も練習ですので、1日目から、誰もいない教室で練習してください。自分が板書項目で書くのを2回ぐらい書いてみてください。消しては書き、消しては書きという練習をぜひ、してください。字は下手で結構です。読める字で書けばいいです。なかには目の悪い生徒もいて、前のほうに來ているクラスもありますが、場合によっては中ぐらいのところもあるし、眼鏡をかけてない場合もあるので、ちまちました字で書かないで比較的大きな字で書くことを考えてください。

まずはいろいろな抱負があると思うんですね。いい授業をしたいな、クラスでいっぱい意見を出させたいな、討論させたいな、そういう抱負がいっぱいあって、それは素晴らしいことだと思いますが、徐々に自分のやることをあげて行ってほしいと思います。まずは基本をやるかどうか重要です。

(2) きちんとした対応を

最低限のことをきちんとやる必要があると思います。非常に硬い話をして申し訳ないのですが、私もあまりこういうことを言うのは好きではないのですが、基本的に教員は礼儀を重んじます。多分一番うるさいと思います。

まず、服装、頭髪からチェックされます。その格好では来ないでくださいとか言われます。それから挨拶、それから「ありがとうご

ざいました」。そういう細かなところにうるさい方は多いです。それはどこの世界もそうかもしれないけれども、教員の世界、特に中学校の世界はそうです。

子どもと親しく話をする学校もありますが、子どもと距離を置く学校もあります。教員と話す時は、しっかりした言葉遣いで話さないということしか認めない学校もあって、様々な学校があります。そういうことも含めてどこまでしっかりやればいいのか、その学校をよく見てほしいです。例えば理科の授業を見るとすると、どうしますか。まず、頼みにいきますよね。空いているから理科の授業を見なさいと指導教員に言われたら、理科の授業の先生のところに行きます。

「実習をします〇〇です。よろしくお願ひします。〇時間目の理科の授業を見てよろしいでしょうか」と言うと「だめです」と言う先生はあまりいないですね。何か理由があつてだめですと言う場合があるかもしれませんが、それは何か理由があると思ってください。

「はい、どうぞ」と言ったら、その時間の始まる前に行って待っている。立って、しっかりとメモを取りながら見る。ぼーっと見ない。メモを取りながら見て、最後はどうしますか。授業が終わって廊下へ出た辺りで、ちゃんとお礼を言うことです。

それを言わないと理科の先生が何とどうかという、指導教員に対して「お礼も言わない。どういう指導をしているの?」と言う人もなかにはいるのです。

ですから、学校はなあなあの世界だと思わないでください。そういう面では非常に厳しいところもありますので、そういう世界だと思って入ってきてください。

(3) 板書について

お配りした水色の紙を見てください。教科書から抜いたものが左に書いてあります。例

えば江戸時代の安定期に三都や街道ができたとか、海運ができたとかが出ています。

例えば三都の発展というのがありますが、このところを目でずっと追ってください。1行目から10行目まであります。行数で示すといいです。教科書はまんなかに行数が入っていますので、まんなかの教科書の行数を「左側のページ、何ページ何行目」と言って示せば、子どもたちはほとんど分かりますので、そういう形で示します。では、じっくりと自分で読んでみてください。どうぞ。

(黙読)

1回目を讀んだ方は2回目を讀んでください。今度は、どのように自分が板書をするか自分でイメージをつくりながら読んでみてください。どうぞ。

(黙読)

では、裏紙を差し上げますので、それを使って今の10行を簡単に板書してください。その部分だけで結構です。自分なりでいいです。

(各自、板書を書く)

では、途中の方もあると思いますが、この方を見てください。江戸、大阪、京都のそれぞれの特徴が「三都の発展」として書いてある。教員のなかで一番簡単に書く人はこのぐらいだと思います。あと、詳しく書いてもいいですし、もう少しいろいろなものを入れても結構ですが、まず、教科書を簡略にまとめることが必要です。同じように右側のページもあるのですが、左・右の見開き2ページで1時間ぐらいとを考えてください。それをだいたい頭に入れて授業をつくるわけです。

まず、自分のイメージとしては、よく読み込みながら板書項目を書いていく。私も間違えて教えてしまうことが時折あるのですが、その時は「すみません、間違いました」と言って訂正すればいいです。まず、自分の頭のなかで整理しないとイケません。ごちゃごちゃのまま授業をすると伝わらないのです。今

のように簡略でいいから書いてみて、こことここここはこうだなということを教えるということです。

それでノートをしっかり取らせるということです。取らせるには1人ひとりを見る必要があります。1人ひとりをちゃんと見てください。ノートを取っていないで寝ている子がクラスに必ずいるので、ぼんぼんとやって起こしてあげてください。もし「うるせえな、このやろう」と言ったら引いて、けんかをしないでください。あとは担当教員に任せてください。そういう気持ちの荒れている子たちがいる学校もありますし、クラスもあります。私立もあるかもしれませんが、多くは公立の中学校だと思います。

(4) 授業で生徒との応答を創り出す

例えば、教科書に載っている越後屋さんのところの図版を使ってもう少し具体的にしてみると、より面白い授業ができると思います。

例えば、「これは何を売っているところですか」という問いをします。どうでしょう？ どなたかどうぞ手を挙げてください。これは何を売っていますか。あてずっぽうでも構いませんよ。後ろの方どうぞ。

(「反物を売っている」)

そうですね、反物を売っていますね。これは呉服を売っている反物屋さんです。人は入っていきそうですか。はやっていきそうですか。どうぞ、皆さんで。

(「はやっています」)

はやっている。そのように指導するんですよ。声が出ないと困りますよ。自分が教員だと思ってください。はやっていますか。

(「はい」)

こういうクラスがいいですね。小さい声でもちゃんと答えてくれないと授業が進まないでしょう。だから答えてよというように「小さい声でもいいから言って」と言うんです。



では次にいきます。「現金掛け値なし」と書いてあるけど、どこに書いてあるか分かりますか。どこに書いてあるか分かった人、手を挙げてください。

(挙手)

はい、そうですね。だいたい左側の上に「現金掛け値なし」と書いてあります。何か分かる人はいますか。半分でもいいですよ。現金は現金ですね、キャッシュで払えということです。掛け値というのは、掛売といって、付けによる商売をずっとして、付けだったのです。というのは、武士の給料は年に3回とかそういう支払い方ですから、付けで買って給料をもらった時に支払う形だったのです。でも、付け払いはやめて、非常に安く、約半値ぐらいで現金で売ったために、すごくはやったというお話です。

「客はどれだけ分かりますか」と言って、指をさします。指してみてください。

(指さす)

指したかどうか、「そうですね」とか言いながらちゃんと見ていくんです。

それで、坊主がいますが、この坊主は何をやっているのですか。これは不思議ですよ。これは調べれば出てくると思うのですが、願人といって、紙札を売ってお金を集めている方です。だから丁稚のまんなかにいる男の子が、嫌そうにして見えていますね。そういうことが出ていると思います。

越後屋さんのマークがあるのが分かりますか。右側の三と漢数字で書いているのがマークです。このような、よいものを安く現金で売するような店がやはり始めたというのは、非常に生産が上がっている時代だということが分かります。

この図1枚だけでもいろいろなことが分かるので、ぜひ図や写真などを利用して「問い」にしてほしいと思っています。文章より図や

写真のほうが、勉強があまり得意ではない子もよく分かって、比較的読み取りやすいのです。

別の所ですが、傘連判状が出ていますよね。これは必ずどこの教科書にも比較的載っているのですが、一揆をする時の円形の連判状です。なぜ、円形にしたのでしょうか。これも分かる人はいますか。どうぞ、はい。

(「円形にすると誰が首謀者か分からない」)



そうですね、円にすると誰が首謀者か分からないというのが大きな理由で、まんなかには「みんな抜けないでがんばろう」と書いてあるそうです。ちょっと読めないと思いますが、66名の名前が書いてあって、印も押してあります。

こういう何か1つの問いでいいですから、1時間に何か1つの問いを用意してください。これを見つけるのにちょっと時間がかかるんですよ。公民をやる人もいるし、地理をやる人もいると思うのですが、何か1つでいいです。

例えば、地理で小麦をやるとするならば、小麦でつくる製品を持ち込みます。パンを持ち込んだり、ナンを持ち込んだり、うどんを持ち込んだり、パスタを持ち込んだり、小麦でできているものをいっぱい持ち込んで、そういう実物を見せるのもいいと思います。

それを逆に、「これは何でできているか」とクイズにするのもいいと思います。

うどんとパスタの違いはよく分からないですね。両方とも小麦でできているのですが、パスタの場合は卵が入っているものもあるし、入っていないものもあります。練り方によってちょっと種類が違う小麦だけでパスタとうどんになったりするようですので、ネットで調べるとか、図書室へ行って調べてみるといいと思います。

ヒントになるのは指導書です。常にまっさらからやるのはなかなか難しいですから、「先生、申し訳ないんですけど指導書を貸してください」と言って、自分のやるところをコピーさせてもらってください。

(5) 教科書の内容から自由な展開へ

ただ、指導書はうまくまとまっているけれども、つまらないです。そんな面白いことは書いていませんが、でも、ここをちょっと深めてみれば面白い授業が、問いがつくれそうだなということが指導書のなかで分かりますので、問いがつけれるところで作ってみてください。

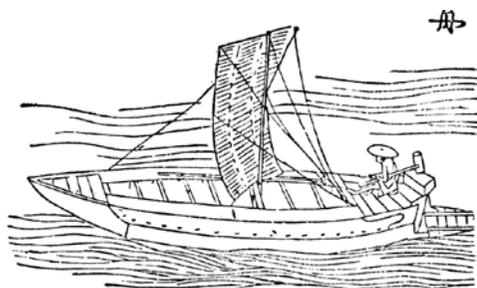
問いは簡単なものから始めていいですよ。「江戸、大阪、京都をまとめて何というの?」、こんな問いでもいいです。まずは簡単な問いからいくつか準備して、これぞという問いを1つ準備することで、授業は素晴らしくなりますので、ぜひ、そのようにしてほしいと思います。

例えば、次の所に、3つのものが示してあります。答えは何かに関連しています。平仮名3文字です。共通している物質名を教えてください。大抵ほとんどの人が毎日します。はい、どうぞ。

(「うんち」)

うんち、うんこですね。これは堆肥となる人間のうんこを運んでいる船です。それから

これは大根を持って現物交換で下肥を集めているというわけです。長屋へ行って、長屋の溜まっているものを取って、それでこれを全部渡してから、これにまた詰めるようですが、そうやって長屋主はこれで1つはもうけているということです。だいたい1年間に1人、これで何十杯か出るわけですから、大変なもうけになります。



これはお城の外でうんこをいっぱい背負わせて、これから農家に行くということです。だから江戸時代では下肥は肥料として比較的良好に利用された、最もいい肥料だったといわれています。

パリなどは非常に有名ですが、うんこの処理や汚水の処理は、上から降らせたそうですね。つまり、当時の人口は江戸が100万、パ

リも80万ぐらいいたのですが、歩いていると上からボンボン降ってきた。それでパリの人は何を付けるようになったのですか。

(「香水」)

そうですね、香水を付けるようになりました。ところが、当たり前ですけど、病気はやるのです。何という病気ですか。

(「コレラ」)

コレラはもう少し暑いところですよ。チフスのはやったそうです。そうやって「コレラ」と言ってくれるような方が一番いいんですよ。間違った答えを言わないとつまらないんですよ。コレラとか、インフルエンザとか、子どもたちはいろいろ言いますから、やはりそうやっていっぱい言ってくれて、ありがたいわけです。いっぱい言ってくれてなんぼの教員なんですよ。

言ってくれないと、本当にシーンとしたなかで自分だけしゃべっていると馬鹿みたいです。だから、「よく言ってくれましたね」「うん、なるほどね」と受けて止めて「でも、これは〇〇だよ」「言ってくれてよかった。ありがとうね」と言うといいですよ。

ほとんどが自分のクラスで研究授業をやるでしょう。給食を一緒に食べるでしょう。その時に「コレラ」と言ってくれた子に「発言ありがとうね」と言うんですよ。そのように評価されて子どもはうれしい。違ったことでもいっぱい言うことが、みんなのクラスの授業をすごく活性化させたことが分かるということです。

実は授業と生活指導は絡み合っていて、授業をやりながらその時の授業の様子をてこにして、例えばいろいろな問題行動がある場合でも生活指導をしたりします。ですので、ぜひ、授業中の発言は誰が言ったか忘れないでください。そういうことが教員になると特に必要に思います。

水色の裏側を見てください。「江戸時代は〇〇〇〇社会」と書いてありますよね。この

5 文字を入れてみてください。何が入りましたか。どなたか。どうぞ

(「エコロジー」)

エコロジー、はい、入りますね。でもちょっと難しいかもしれませんが、当たっています。ほかにどうですか。どうぞ。

(「リサイクル」)

はい、リサイクル、エコロジー、結構です。そういう社会であったといわれています。

そういう風に、教科書から発展して、自由な、しかし本質的な問題を考えられるように、展開をしてみるといいですね。

(6) 質問に答えて

今、板書をまとめてもらったのと同じ紙に、質問事項があれば書いてください。後でざっと答えていきますので、実習中のことで何でも結構です。例えば、〇〇が不安ですとか、〇〇はどうしたらいいんでしょうかとか、まったく漠然としたことでも結構ですし、具体的なことでもいいです。

—— (しばらく時間をおいて) —— どうぞ。

◇「板書はゆっくりでもきれいなほうがいいのか、それほどきれいではなくても速いほうがいいのか。私は通常は左利きですが、書道ぐらいの字なら右で書こうかと思っています」

——左利きで書いたらいかがですか。いつも書いているほうで普通に書けばいいと思います。読めればいいです。ゆっくり書いてください。

◇「教科書はどこをやるか分からないと言われた。高圧的でちょっと心配しています」

—— 2週間前ぐらいにもう1度行って、一生懸命にやりたいのと言って、どこをやるか教えてもらってください。一生懸命にやる学生に対して決して邪険にしないと思います。邪険にしたらその教員が悪

いですから、そのように思ってください。

◇「実習では地理を教えることになったのですが、中学以来まったく地理を勉強したことがありません。まず、何から始めればいいでしょうか。地理を教えるうえで一貫して重要なことは何ですか」

——場所をはっきりさせながら地図帳とちゃんと照らし合わせてやることです。あと、具体的なものを扱うことです。いろいろな産物とかは例えば、グーグルの写真のサイトで見れば、実物が出ますよね。それを印刷してカラーコピーして大きくしてやってみてください。

◇「もし、分からないことを質問されたらどうしますか」

——これは「すみません、後で調べます」と言って、きちんと調べてください。

◇「予定通りに授業が進行しなかったら、どのように調整しますか」

——そんなにピタッと終わることを教員は期待していないですから、遅れたとしても一生懸命やってください。できるだけ速く進もうとしてやってみてください。そして、あまり速すぎたら教員のほうでストップをかけて「それは速くて分からないよ」と言いますから、そんなに100%のことを実習する方に期待はしないので、もう少し楽な気持ちでいいです。

◇「授業方法としては、やはり指導担当の先生のやり方に合わせたほうがいいですか」

——その先生をよく見てください。合わせないとだめそうな人なら、そうしてください。私などは割と、好きなようにやってくださいと言って、プランだけ出してもらってやってもらいますが、いろいろな先生がいます。

◇「学校というか、学区的に荒れているので、いじめられないか心配です」

——そうですね、心配ですね(笑)。荒れている学校は、細かくやると教員として務ま

らないから、教員は割と大まかです。だから、割とやりやすいかもしれません。自分をうまく守ってください(笑)。ただ、いじめられたほうが経験になるかもしれません。

◇「実習後に実習校に行っても大丈夫ですか」

——来て手伝いたいんですけど、無料で来たんですけど、と言って、OKが出たら行ってください。その学校で聞いてください。

◇「指導案はいつつくるのですか。前日に担当教員に見せに行くのですか。何日か前ですか」

——これはいろいろあると思いますが、指導案は大事です。いろいろな指導書とかがあるので、それを見ながら指導案を書けるようにトレーニングしてください。指導の本などを見ても構わないと思います。何日か前に見せるし、間に合わなければ前日も構わないと思います。実際、進度が分からないので、例えば実習の最後の研究授業は、前日になると思います。多分寝られないかもしれませんが、うまくやってください。若いから大丈夫です。

◇「フレンドリーさが大切なのか、真面目さが大切なのか」

——自分なりに一生懸命にやればよいと思います。節度を持って真面目に一生懸命にやればよいです。一生懸命やれば必ず実習から多くのプレゼントをもらえます。大学の勉強よりもっと密度の濃いものが得られると思いますので、教員になる気がなくて民間に行きたい方もぜひ、一生懸命やってください。

◇「授業の導入は何をしたら、生徒が授業に入ってこられますか。どうしたら生徒が発問に答えてくれますか」

——一生懸命に考えて問いをつくってほしいと思います、例えば簡単にいえば、本を

見てその通りの絵や写真を導入するのは1つのやり方だと思います。それから、何枚かの写真を用意して三択のクイズをやるのも1つのやり方でしょう。あと、発言させたいと思ったら、「ノートに記入してください」とか、ワークシートを配っておいてワークシートに記入させるんです。それで、どうですかと見ながら、記入したなどという子に「どうですか」と言って、手を挙げない場合でも「はい、どうぞ」と言って指してみるといいです。ワークシートに記入させてから答えさせるのはとても大事だと思います。というのは、書くことによって考えることが多いわけですよ。ですから書かせることはとても大切なトレーニングで、子どもにとってもいい作業だと思います。

◇「教採の二次試験は模擬授業がありますが、事前に内容は発表されるのでしょうか」

——ちょっと分かりません。「指定されたところでやるのでしょうか」。これも調べてもらえば多分出てくると思います。例えば実習中に、いい校長先生とか、いいなと思う教員なら、いろいろ話をできるようにしておくことです。私の学校ですと必ず終わった後に、ほかの教員も集めて飲み屋さんで、ご苦労さん会をやります。それで繋がって、教員としては、実習生であろうとも自分のちょっと教えた子に関してはその人が成功することを願っていますから、そういう面でいろいろな形でうまく付き合いを続けたほうがよいと思います。

◇「教員採用に落ちた場合、非常勤や臨時の教員として働きたいと考えています。実際その場合、募集はどのぐらいあるのでしょうか」

——臨時採用や非常勤は必ずあると思います。各都道府県の教育委員会やその窓口に関

いてみてください。社会科は結構採用試験の倍率が高くなっていますが、講師になって 14~15 時間持つと、東京都の場合は一次試験が免除になります。自分が教員に向いているか向いてないか、まだ分からないじゃないですか。中学生と一緒に向かい合って生活したりするのが幸福かどうか分からないじゃないですか。不幸な場合もありますから、もし教員になりたい人は講師をやってみてというのも 1 つだと思います。

一生懸命やれば多くのものが返ってきますので、ぜひ恐れなくて、とにかく懸命にやってください。皆さんの頑張りを期待します。